

# 東京農業大学稲花小学校

## 学校だより【7月7日】第52号



### 雨の日にも

毎朝、正門で子どもたちを迎えています。最近、1年生と2年生が何やら話しながら歩いてきたり、「校長先生、バスの中で騒いでいる子がいます！」と正義感を発揮する子どもがいたり、一方、たまにですが制帽を忘れてくる子どもがいたり、と楽しいものです。時々、正門で2年生に簡単な足し算クイズをだして、正解したら、「はい、合格。本当に2年生ですね！」のやり取りも楽しんでいます。「足し算じゃなく、掛け算の問題がいいです」とか、「なぞなぞにしてください」など注文もできます。中には、「私、1年生なんです」と茶目っ気たっぷりのお芝居をする2年生もいて、それぞれの成長を感じます。

梅雨に入り、子どもたちは雨具の扱いにも慣れなくてははいけません。バスや電車の中で濡れた傘を振り回さないようにする、昇降口できちんと傘立てに入れる、雨具をまっすぐにフックに架けるなど、ちょっとした気配りが必要ないろいろな場面があります。そして、そのような場面で、日ごろのご家庭での様子が垣間見える気がします。安全に登下校し、気持ちよく学校生活を過ごすための行動が自然にとれるように、ご家庭でも引き続きのご指導をお願いします。



雨の日の小学校正門前の光景

### レモンの香りを楽しみました

6月25日(木)、1年生と2年生は、一人1個ずつ、香りのよいレモンを持ち帰りました。これは、東京農業大学の校友(卒業生)で広島県尾道市のこうもと農園高本泰伸様からプレゼントしていただいたものです。高本様ご一家は親子2代、そして、奥様もまた同じく東京農業大学卒業という農大ファミリーです。農園所在地の広島県生口島(いくちしま)で昭和3年からはじまったレモンの栽培。今では全国一のレモンの生産量を誇っており、



教室で「レモン」をプレゼント！

「国産レモン発祥の地」と言われているということをお教えいただきました。早速、週末にレモネードを作ったご家庭や、かわいいレモンの絵を描いてくれた児童などもいました。レモンを囲んでの楽しい笑顔が想像できますね。

## 頑張れ子どもたち、頑張れ先生たち

新型コロナウイルス感染防止のために、子どもたちにも無言の給食、頻繁な手洗いなど、緊張を強いる毎日です。本校の教員も、換気や子どもたちのソーシャルディスタンスを保つ指導に心を砕き、また、終業時には校内の消毒を行うなど、実のところいつもより業務は増大しています。

そのような中、東京農業大学と2017年以来産学連携協定を締結しているサッポロホールディングス株式会社様から、お茶やジュース類をご寄贈いただきました。子どもたちは1リットルパックを持ち帰り、冷やしたお茶やジュースを味わったようです。本校教職員も3月に続き2度目のご寄贈で児童とは一味違うアーモンドミルクやフルーツベースマンゴーなどをいただきました。小学校創立を記念して植樹していただいたレモンの木も、農大稲花小学校で元気に育っています。



贈呈されたレモンの木

## 熱中症にも気を付けて

登校時にすでに「鼻マスク」になっている子どももいますが、概ねマスクの着用は定着しているのはうれしいところです。低学年の子どもたちとはいえ、マスクの大切さについては理解できているようです。

一方、予想されていたことですが、マスクをつけていると暑さがひとしおです。そのため、外に出たの体育では、十分な間隔を守ってからマスクをはずしてポケットに入れてから、縄跳びなどを行っています。体育館も空調を早くから入れています。心配な水分補給ですが、グラウンドでも、トマトやナスの畑に行くときも帽子と水筒は必需品です。先生方がこまめに声がけをして、水分補給も怠りなく行っています。

ご家庭でも、水分補給の大切さをお話いただき、学校でもご家庭でも熱中症の防止に努めてまいりましょう。

新型コロナウイルスの新規感染者数はまだ減少の兆しを見せません。保護者の皆さまには、お子さまとともに、感染防止策を十分にとり、健康を維持していただきますようお願い申し上げます。

校長 夏秋 啓子